

呼吸器

研修ノート

シリーズ総監修

永井良三 東京大学教授

責任編集

萩原弘一 埼玉医科大学教授

編集

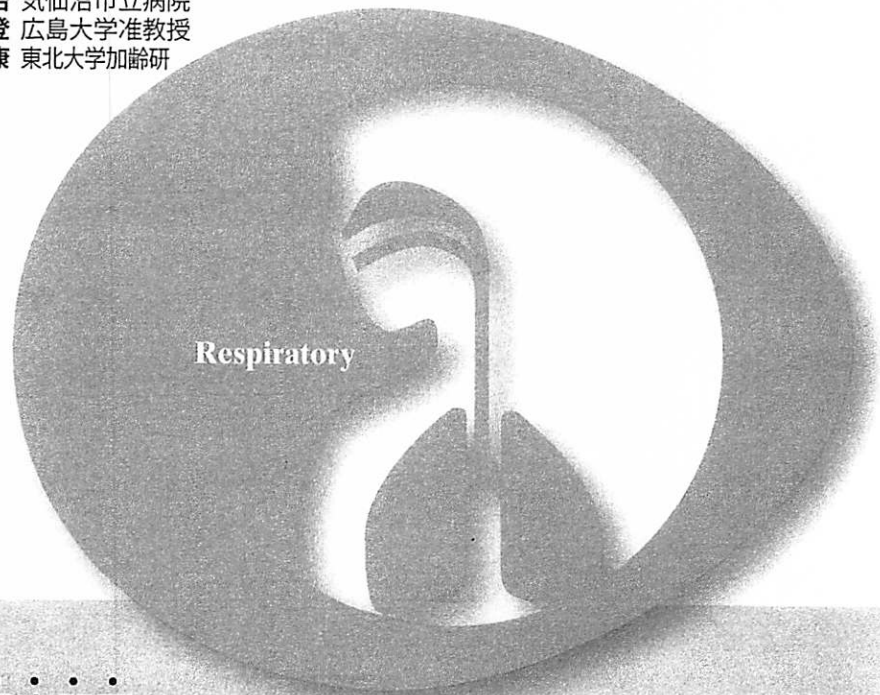
芦澤和人 長崎大学准教授

大泉聡史 北海道大学講師

冲永壮治 気仙沼市立病院

服部 登 広島大学准教授

星川 康 東北大学加齢研



呼吸器専門医をめざすなら知っておきたい

臨床現場の
エッセンス

180

心構えから診断・治療、各種書類の書き方まで網羅



診断と治療社

1 原発性肺癌

Don't Forget!

- 肺癌はわが国の癌死亡原因の最多を占め、さらに増加傾向にある。
- 分子標的治療薬の導入、多くの臨床試験により治療法が進歩している。
- 最新のエビデンスを理解し、眼前の患者さんに最適な治療法を提供しなくてはならない。

1 総論

A 疫学

肺癌は、気管支及び肺胞上皮から発生する上皮性悪性腫瘍の総称である。厚生労働省の統計によると、わが国では2006年に63,200人あまりが肺癌で死亡しており、全癌死亡原因の約19%と最多を占めていた。性別にみると男性では癌死亡原因の第1位、女性では大腸癌、胃癌に次いで第3位であった。肺癌の年間罹患数は現在80,000～90,000人で年間死亡数の1.2～1.3倍と推定されており、このことは本疾患罹患者の生存期間が短く、予後不良な疾患であることを意味している。肺癌は罹患数、死亡数ともに増加傾向にあり、特に高齢者症例の増加が目立っている。

B 病因

肺癌の最大の原因は喫煙である。喫煙者の非喫煙者に比した肺癌罹患リスクは欧米では10倍以上とされるが、わが国では男性で3～5倍、女性で3～4倍とされている。また、組織別にみると、小細胞肺癌や扁平上皮癌は、腺癌に比し、喫煙の影響がより大きいとされる。喫煙指数(1日喫煙本数×喫煙年数)と肺癌罹患リスクの間には明らかな相関関係が存在する。禁煙をしても、肺癌罹患リスクが低下するには5～10年以上の期間が必要である。喫煙以外の原因としては、アスベスト曝露、大気汚染、

遺伝的素因などがある。アスベストの使用はすでに禁止されているが、曝露から肺癌発症までには10～20年以上の長期間を要することから、病歴聴取時に職業歴、アスベスト吸入歴の有無を確認することは大変重要である。アスベスト以外の職業関連因子としてはクロム、マスタードガス、コバルト、ヒ素などの曝露が肺癌の発症に関連している。

C 発生母地

肺癌の発生母地は、組織型によって異なる。即ち、小細胞肺癌は神経内分泌細胞、扁平上皮癌は基底細胞、腺癌は細気管支領域の気管支上皮細胞や、肺胞領域のⅡ型肺胞上皮細胞、クララ細胞などにそれぞれ由来すると考えられている。

D 肺癌検診

新規肺癌症例の半数以上は、診断時に手術適応のない進行期肺癌である。わが国では、早期発見・早期治療による肺癌死亡者数の減少を目的に、40歳以上を対象に胸部単純X線写真による年1回の肺癌検診が実施されている。40歳以上で6か月以内に血痰のあった場合、50歳以上で喫煙指数が600以上の場合を高リスク群とし、喀痰細胞診が合わせて実施される。現在の肺癌検診受診率は25%程度と必ずしも高くなく、受診率の向上が課題である。CTを用いた検診については現在検討が進められている。

レベルに応じて痛み、運動麻痺、知覚鈍麻、膀胱直腸障害などの症状を呈する病態である。麻痺を認め急速に進行する場合は、予後を考慮した上で、歩行能などの機能維持を目的に、椎弓切除術、後方徐圧固定術などの緊急手術を行うことがある。最も重要なことは、本病態が疑われた場合、速やか

にMRIなどの画像検査を行って整形外科医に相談することである。手術の適応がない場合には放射線治療が実施され、痛みの軽減や、歩行能の保持が期待できる。本症において大量のステロイドが併用されることがあるが、明確なエビデンスはない。

文献

- 1) Chemotherapy in non-small cell lung cancer : a meta-analysis using updated data on individual patients from 52 randomised clinical trials. Non-small Cell Lung Cancer Collaborative Group. *BMJ* 1995 ; 311 : 899-909
- 2) Schiller J, et al. : *N Engl J Med* 2002 ; 346 : 92-98
- 3) Ohe Y, et al. : *Ann Oncol.* 2007 ; 18 : 317-323
- 4) Mok T, et al. : *N Engl J Med* 2009 ; 361 : 947-957
- 5) Mitsudomi T, et al. : *Lancet Oncol* 2010 ; 11 : 121-128
- 6) Maemondo M, et al. : *N Engl J Med* 2009 ; 361 : 947-957
- 7) Scagliotti GV, et al. : *J Clin Oncol.* 2008 ; 26 : 3543-3551.
- 8) Sandler A, et al. : *N Engl J Med* 2006 ; 355 : 2542-2540
- 9) Lynch T, et al. : *N Engl J Med* 2004 ; 350 : 2129-2139
- 10) Soda M, et al. : *Nature* 2007 ; 448 : 561-566
- 11) Turrisi AT 3rd, et al. : *N Engl J Med.* 1999 ; 340 : 265-271.
- 12) Noda K, et al. : *N Engl J Med.* 2002 ; 346 : 85-91.

- ・本書の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は株式会社診断と治療社が保有します。
- ・**〔COPY〕**(©出版者著作権管理機構 委託出版物)
本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。
複写される場合は、そのつど事前に、©出版者著作権管理機構
(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail : info@jcopy.or.jp)
の許諾を得てください。

研修ノートシリーズ
呼吸器研修ノート

ISBN 978-4-7878-1798-3

2011年4月29日 初版第1刷発行

総監修者 ながいりょうぞう 永井良三
責任編集者 はぎわらこういち 萩原弘一
編集者 あしざわかずと おおいつととし おきながれいじ 芦澤和人, 大泉聡史, 冲永壮治
はっとり けんた ぼしかわ けん 服部 登, 星川 康
発行者 藤実彰一
発行所 株式会社 診断と治療社
〒100-0014 千代田区永田町 2-14-2 山王グランドビル 4階
TEL : 03-3580-2750(編集) 03-3580-2770(営業)
FAX : 03-3580-2776
E-mail : hen@shindan.co.jp(編集)
eigyobu@shindan.co.jp(営業)
URL : http://www.shindan.co.jp/
振替 : 00170-9-30203
表紙デザイン ジェイアイ
印刷・製本 広研印刷株式会社

© 2011, Ryoza NAGAI, Kouichi HAGIWARA
Published by SHINDAN TO CHIRYO SHA, Inc., Printed in Japan.
乱丁・落丁の場合はお取り替えいたします。

[検印省略]

260 p.